B.LEAGUE

B.LEAGUE 2021-22 SEASON
COVID-19 REPORT

監修 B.LEAGUE 新型コロナウイルス感染対策チーム

エグゼクティブ アドバイザー：中山 晴雄
（東邦大学医療センター大橋病院 院内感染対策室・副室長・専任 ICD、日本感染症学会感染症専門医）

アドバイザー：佐保 豊
（ＮＰＯ法人スポーツセーフティージャパン 代表理事）

B.LEAGUE 2021-22 SEASON

COVID-19 REPORT

INDEX

01. 2021-22 シーズン 総評
02. 2021-22 選手スタッフ感染者発生状況
03. 統一検査実施状況
04. ワクチン接種状況
05. その他接触者に関する 3 日目検査結果
06. B1B2 リーグ戦試合中止状況
07. B1B2 リーグ戦成立要件充足状況
08. 消化試合数一覧
09. B1CS / B2PO 開催状況
10. 2021-22 シーズン陽性実績検証 _2021-22 シーズン全体
11. 二次感染率の検証 _2021-22 全体 &2022.4.5 以降
12. 興行来場者による感染実態
13. 2022-23 シーズンへ向けた課題整理

コロナ環境下最大の影響を受けたシーズン

- 2021-22 シーズン全体 (2021 年 7 月 -22 年 5 月末) での選手スタッフの陽性者数は、
2020-21 シーズンの 111 名から 440 名へ

- 2021 年内の感染状況は沈静化ながら、2022 年よりオミクロン株の猛威により昨対比 4 倍程度の陽性者が発生

- リーグ戦の試合中止も昨年倍以上の 198 試合。消滅試合数が 115 試合。予定の 10.6% の試合が消滅（不開催）へ

- 他方で、イベント開催制限は収容率 100% での開催を取り戻す。大声による応援・観戦は NG ながら、
シーズン終盤は沖縄アリーナでの 8,000 名以上による満員や、FINALS でも満員に達し、来場者数も徐々に回復

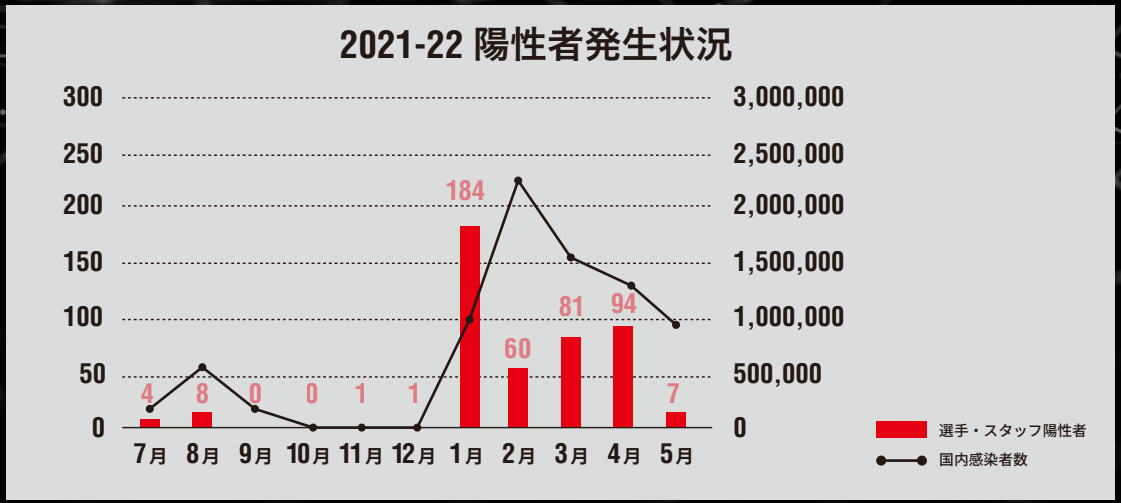
- 陽性者に対する濃厚接触者判断も保健所からの判断委譲が進み、リーグ独自基準の改正を並行。
影響範囲の絞り込みと待機期間の縮小により試合開催への可能性を広げた

- 感染拡大期においては競技中の感染リスク懸念が強まったものの、
4 月以降においてはオンコートにおける感染リスクは局所的と捉えられる状況も確認されており、
より行動制限の限定化を進めたい

オミクロン株による第 6 波発生により爆発的な感染発生

ワクチン 2 回接種により 21 年内の感染状況は沈静するも、
その発症予防効果が低減するタイミングでのオミクロン株の発現によりリーグ内にも大きな影響が発生

21 年 12 月時点においては感染リスクも低く、1 月以降の感染発生に際する対策の緩みへ影響した可能性も



年間合計陽性者数は 440 名（昨対 396%）

**21 年中の発生は 14 件
全体の 96.8% は 22 年内の発生**

**国内の流行状況の影響は顕著にあるものの、
1 月の発生数が突出して大きい。
感染対策の緩みが生じた可能性もあり**

全 19 回の統一検査（唾液 PCR 検査）を実施

- 全体の陽性率は 1.22%（17,043 検体中 208 検体）。選手のみの陽性率は 1.68%（7,953 検体中 134 検体）
- 2020-21 の統一検査陽性率は 0.16% であり、今季昨対で約 7.6 倍へ増加（統一検査陽性者は今季 208 名、昨季 32 名）
- 今季陽性 440 名のうち、統一検査で陽性発覚のケースは計 30 名であり全体の 6.8%

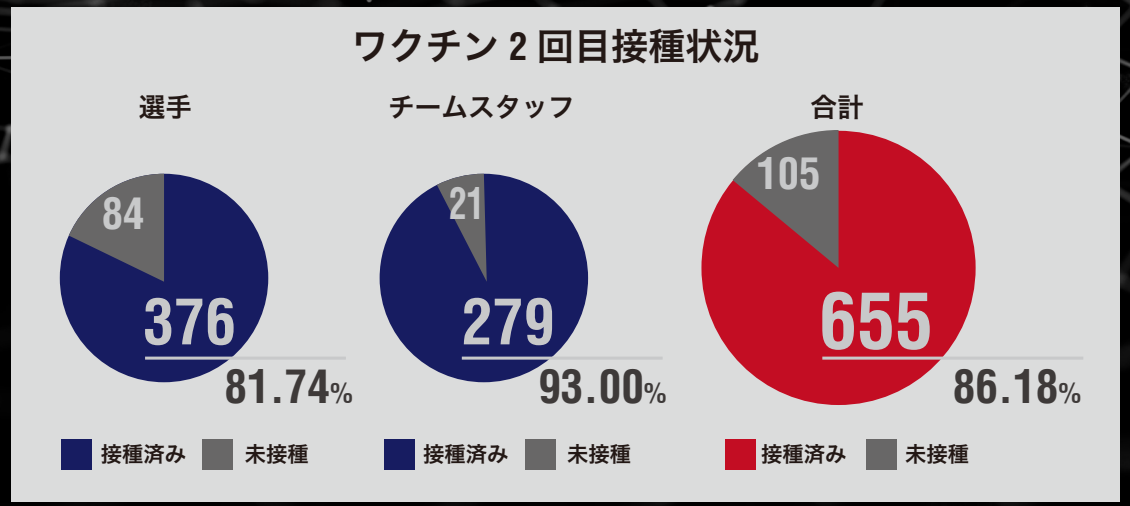
※延べ検体数で記載

検査区分	選手	チームスタッフ	フロントスタッフ	審判員	小計
総検体数	7,953	5,333	2,884	873	17,043
L 陽性判定	134	58	14	2	208
L 陰性判定	7,799	5,262	2,860	869	16,790
L 判定不可	20	13	10	2	45

2 回目接種まではほとんどの選手・スタッフにて完了済

シーズン開幕前 9 月末時点で選手 78.70% / スタッフ 88.89% の接種率は、
11 月末にて選手 81.74%、スタッフ 93.00% へ拡張

他方で、オミクロン株まん延下においては感染予防効果も限定され、リーグ内に感染拡大が発生



21 年 11 月末時点の 2 回目接種率は左記

追加接種時期がシーズン中に重なり、
かつ中止試合の代替等による日程の過密化により、
追加接種はシーズンオフがボリュームゾーンになる見込み

オミクロン株に対しては追加接種により
一定の効果復元があるため、より重要

リーグ独自基準によるその他接触者の陽性化リスクは局所的

陽性者発生時に「その他接触者」と判断された選手における 3 日目検査での陽性率は 8.89% と局所的

その他接触者の 3 日目検査陰性者がその後体調悪化し陽転化したケースは 3 件のみ
※対象 90 名中検査陰性 82 名のうち 3 件（3.66%）であり、検査感度の限界を踏まえればやむ無しの結果と判断

感染性保有期間に試合出場歴がある陽性者が発生した場合でも、
対戦クラブでの陽性化は 3/15 以降実績なし（0%）。当該クラブ内でも 16.18% の陽性化割合。

試合時の接触歴のみでの陽性化割合は高くなく、
今後「陽性化リスクの低い接触者への行動制限を縮小する」ことにより試合開催を目指す

対象	3 日目検査受検対象者数	陰性判定	陽性判定	陰性後陽転化
一次陽性者当該クラブ	68 名	60 名 (88.24%)	8 名 (11.76%)	3 名 (5.00%)
一次陽性者対戦クラブ	22 名	22 名 (100%)	0 名 (0%)	0 名 (0%)
合計	90 名	82 名 (91.11%)	8 名 (8.89%)	3 名 (3.66%)

06. B1B2 リーグ戦試合中止状況

- 中止試合に対して B1 は 42.9%、B2 は 41.0% が代替開催済み
- 中止分の代替開催予定試合においても B1 で 13 試合、B2 で 10 試合が中止。※以下「中止試合」へ二重計上
- 3/16 発生の福島県沖地震により福島および仙台の各 4 試合が中止（以下「中止試合」へ計上）となり、うち各 1 試合ずつ消滅（以下「消滅試合」へ計上）
- B1 の中止消滅は全案件コロナ起因。B2 の中止は 92 試合、消滅は 57 試合がコロナ起因

B1/B2	中止試合	代替試合	消滅試合（不開催）	2020-21 中止試合	2020-21 消滅試合
B1	98 試合（昨対 208.5%）	42 試合（昨対 200.0%）	56 試合	47 試合	26 試合
B2	100 試合（昨対 212.8%）	41 試合（昨対 136.7%）	59 試合	47 試合	17 試合
合計	198 試合（昨対 210.6%）	83 試合（昨対 162.7%）	115 試合	94 試合	43 試合

07. B1B2 リーグ戦成立要件充足状況

- B1 は 3/26 の試合終了をもってリーグ戦成立要件充足
- B2 は 3/13 の試合終了をもってリーグ戦成立要件充足
- B1 の消化率は 91.5%、B2 は 86.0% でリーグ戦終了。いずれも昨対割れ
- 総試合 50 試合以下は B1: 千葉 J(45)、名古屋 D(49) / B2: 越谷 (48)、FE 名古屋 (50)、愛媛 (47)、福岡 (50)、佐賀 (50)
- HOME 開催 25 試合以下は B1: 名古屋 D(22) / B2: 青森 (25)、越谷 (22)、愛媛 (24)、福岡 (24)、熊本 (25)

B1/B2	実施試合数最多	実施試合数最少	リーグ戦消化試合	消化割合	2020-21 消化
B1	59 試合 (SR 渋谷 / 富山)	45 試合 (千葉 J)	604 / 660 試合 (※2/3 到達)	91.5%	574 / 600 試合 (95.7%)
B2	55 試合 (西宮)	47 試合 (愛媛)	361 / 420 試合 (※2/3 到達)	86.0%	463 / 480 試合 (96.5%)
合計	—	—	965 / 1080 試合	89.4%	1037 / 1080 試合 (96.0%)

08. B1 消化試合数一覧（全体消化 604/660 試合 _91.5%）

B1/B2	No.	クラブ名	中止試合数合計	HOME	AWAY	代替決定試合数	HOME	AWAY	消滅試合数	HOME	AWAY	消化試合数	HOME	AWAY
B1	1	レバンガ北海道	7	4	3	3	3	0	4	1	3	56	29	27
	2	秋田ノーザンハピネッツ	10	7	3	4	3	1	6	4	2	54	26	28
	3	茨城ロボッツ	10	3	7	4	2	2	6	1	5	54	29	25
	4	宇都宮ブレックス	10	7	3	6	5	1	4	2	2	56	28	28
	5	群馬クレインサンダーズ	11	6	5	6	3	3	5	3	2	55	27	28
	6	千葉ジェッツ	18	3	15	3	0	3	15	3	12	45	27	18
	7	アルバルク東京	11	5	6	4	1	3	7	4	3	53	26	27
	8	サンロッカーズ渋谷	5	2	3	4	1	3	1	1	0	59	29	30
	9	川崎ブレイブサンダース	8	5	3	3	3	0	5	2	3	55	28	27
	10	横浜ビー・コルセアーズ	5	4	1	2	2	0	3	2	1	57	28	29
	11	新潟アルビレックス BB	10	3	7	2	0	2	8	3	5	52	27	25
	12	富山グラウジーズ	2	1	1	1	0	1	1	1	0	59	29	30
	13	信州ブレイブウォリアーズ	10	6	4	4	2	2	6	4	2	54	26	28
	14	三遠ネオフェニックス	7	4	3	5	3	2	2	1	1	58	29	29
	15	シーホース三河	10	5	5	3	2	1	7	3	4	53	27	26
	16	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	15	11	4	4	3	1	11	8	3	49	22	27
	17	滋賀レイクスターズ	11	3	8	8	2	6	3	1	2	57	29	28
	18	京都ハンナリーズ	6	4	2	3	1	2	3	3	0	57	27	30
	19	大阪エヴェッサ	4	4	0	1	1	0	3	3	0	57	27	30
	20	島根スサノオマジック	9	4	5	4	2	2	5	2	3	55	28	27
	21	広島ドラゴンフライズ	6	3	3	3	1	2	3	2	1	57	28	29
	22	琉球ゴールデンキングス	11	4	7	7	2	5	4	2	2	56	28	28
		B1 合計	196	98	98	84	42	42	112	56	56	1208	604	604

08. B2 消化試合数一覧（全体消化 361/420 試合 _86.0%）

B1/B2	No.	クラブ名	中止試合数合計	HOME	AWAY	代替決定試合数	HOME	AWAY	消滅試合数	HOME	AWAY	消化試合数	HOME	AWAY
B2	23	青森ワッツ	17	7	10	9	2	7	8	5	3	52	25	27
	24	仙台 89ERS	15	10	5	8	6	2	7	4	3	53	26	27
	25	山形ワイヴァンズ	12	7	5	4	4	0	8	3	5	52	27	25
	26	福島ファイヤーボンズ	15	8	7	7	5	2	8	3	5	52	27	25
	27	越谷アルファーズ	14	10	4	2	2	0	12	8	4	48	22	26
	28	アースフレンズ東京 Z	14	4	10	7	2	5	7	2	5	53	28	25
	29	ファイティングイーグルス名古屋	16	4	12	6	0	6	10	4	6	50	26	24
	30	西宮ストークス	11	5	6	6	3	3	5	2	3	55	28	27
	31	バンビシャス奈良	12	6	6	6	2	4	6	4	2	54	26	28
	32	香川ファイブアローズ	14	6	8	6	3	3	8	3	5	52	27	25
	33	愛媛オレンジバイキングス	17	8	9	4	2	2	13	6	7	47	24	23
	34	ライジングゼファー福岡	14	7	7	4	1	3	10	6	4	50	24	26
	35	佐賀バルーナーズ	17	8	9	7	4	3	10	4	6	50	26	24
	36	熊本ヴォルターズ	12	10	2	6	5	1	6	5	1	54	25	29
	B2 合計		200	100	100	82	41	41	118	59	59	722	361	361

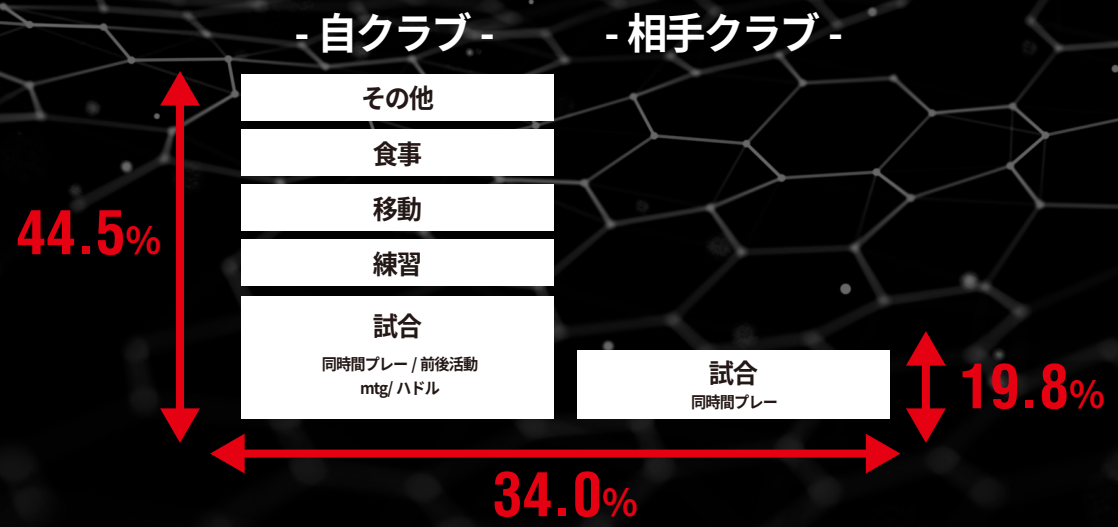
09. B1 CS / B2 PO 開催状況

B1/B2	R	主管クラブ	GAME 1	GAME 2	GAME 3	試合数	合計
B1	QF	琉球ゴールデンキングス	5 / 13 (金)	5 / 14 (土)	-	2	5/29 終了時点 _15 試合
	QF	千葉ジェッツ	5 / 14 (土)	5 / 15 (日)	-	2	
	QF	川崎ブレイブサンダース	5 / 14 (土)	5 / 15 (日)	-	2	
	QF	島根スサノオマジック	5 / 14 (土)	5 / 15 (日)	5 / 16 (月)	3	
	SF	琉球ゴールデンキングス	5 / 21 (土)	5 / 22 (日)	-	2	
	SF	川崎ブレイブサンダース	5 / 21 (土)	5 / 22 (日)	-	2	
	F	B.LEAGUE	5 / 28 (土)	5 / 29 (日)	-	2	
B2	QF	ファイティングイーグルス名古屋	5 / 6 (金)	5 / 7 (土)	-	2	5/22 終了時点 _17 試合
	QF	香川ファイブアローズ	5 / 6 (金)	5 / 7 (土)	-	2	
	QF	仙台 89ERS	5 / 7 (土)	5 / 8 (日)	5 / 9 (月)	3	
	QF	熊本ヴォルターズ	5 / 7 (土)	5 / 8 (日)	-	2	
	SF	ファイティングイーグルス名古屋	5 / 13 (金)	5 / 14 (土)	-	2	
	SF	香川ファイブアローズ	5 / 13 (金)	5 / 14 (土)	5 / 16 (月)	3	
	F	ファイティングイーグルス名古屋	5 / 20 (金)	5 / 21 (土)	5 / 22 (日)	3	
	3rd	香川ファイブアローズ	5 / 20 (金)	5 / 21 (土)	-	2 試合中止・消滅	
B1 / B2							32 試合 _5/29 終了時点 B1 604 試合 + 15 試合 B1 361 試合 + 17 試合 ▶計 997 試合

10. 2021-22 シーズン陽性実績検証 2021-22 シーズン全体

プレー歴による相手クラブ内の二次感染率は家庭内の二次感染率に及ばない

- 全陽性事象から、濃厚接触者（その他接触者含む）とその後の陽性者を抽出（クラブからの報告数に基づく）
- 陽性者の感染性保有期間内に試合出場歴を持つ場合において、相手クラブの濃厚接触者が陽性化した事象は 19.8%
- 他方で自クラブ内の二次陽性は 44.5% であり、オンコートにおける感染リスク以上に前後活動や練習などの影響が大きい可能性有り
  ※二次陽性者からの感染・陽性化の事象も「二次陽性者」として一括計上。感染性保有期間は「陽性者の発症 2 日前から」で設定



国立感染症研究所「実地疫学調査により得られた情報に基づいた国内のオミクロン株感染症例に関する暫定的な潜伏期間、家庭内二次感染率、感染経路に関する疫学情報（2022 年 1 月 10 日現在）」より抜粋
https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2559-idsc/10901-covid19-04.html

表 2 国内 4 事例より得られたオミクロン株家庭内二次感染率（SAR）

自治体	検査者数（X）	感染者数（y）	SAR(y/x)(%) [95% 信頼区間]	観察期間中央値（日）[範囲]
A	17 名	6 名	35 名 [13-58]	全員 14 日間経過
B	66 名	21 名	31 名 [20-47]	全員 14 日間経過
C	24 名	11 名	45 名 [14-76]	全員 14 日間経過
D	18 名	8 名	44 名 [25-66]	6 名 [3-10]

主な制限としては、情報収集時点で同居者濃厚接触者の健康観察期間が終了していない症例を含んでいることから、感染例の発生について過小評価している可能性がある。
一方で、家庭内での三次感染以上を含んでいる場合には過大評価されうる。
また、ワクチン接種状況、感染対策実施状況を含む曝露状況を考慮した結果でないことに注意する必要がある。

確定的な結果では無いものの家庭内の二次感染率は上記 4 件の平均で 38.75%。
オンコートでの感染リスクだけを抽出した場合、当該感染率には至らない状況

11. 二次感染率の検証 2021-22 シーズン全体 &2022 年 4 月 5 日以降

22 年 4 月以降プレー歴における二次感染率は家庭内の二次感染率に及ばない

- 2021-22 シーズン全体の陽性率と、終盤にあたる 2022.4 以降の実績数値には大きな乖離有り
- 特に自チーム内での陽性率の差分は大きく、オンコート以外での感染対策状況が影響している可能性も
- 他方、終盤の対策徹底下において「対策しきれないオンコートの競技環境」における感染リスクの実数が反映されたと判断
- 少なくとも家庭内陽性発生時の二次陽性率よりも遥かに実態は低く、「オンコートにおけるプレーの感染リスクは濃厚接触者の定義レベルには至らない」可能性を示唆。継続調査とリスク評価にてこれを明確化して来季につなげたい

No.	項目	期間	実績	考察	計上定義
1	相手チーム選手の二次陽性率	2021年7月-2022年6月	19.8 %	・年間を通した事象実績 ・家庭内に際する二次陽性率に比べ低い割合	①発生した陽性者の感染性保有期間内に ②同時間帯でプレー歴がある場合において ③濃厚接触者やその他接触者と判断された選手のうち ④その後陽性化した割合
2	相手チーム選手の二次陽性率	2022 年 4 月 5 日以降	0 %	・年間を通した事象よりも低い割合 ・該当 22 名のうち陽性者ゼロ ・コートでのプレーにおける感染リスクは限定的と考えられる	
3	自チーム選手の二次陽性率	2021年7月-2022年6月	44.5 %	・年間と通した事象実績 ・家庭内に際する二次陽性率に比べ若干高い割合	
4	自チーム選手の二次陽性率	2022 年 4 月 5 日以降	16.2 %	・年間を通した事象よりも低い割合 ・該当 68 名のうち陽性者 11 名 ・相手チームよりも陽性率は若干高く、コートでのプレー以外の活動におけるリスクが影響する可能性を示唆	

12. 興行来場者による感染実態

2020-21 シーズンより、来場者が観戦後に陽性発覚した場合、規定期間内についてはクラブへの報告を要請し、当該事象については公表する運用を実施

2 シーズンにわたり場内の観戦行動より、他者を濃厚接触者に至らしめる事象は発生しておらず、2021 年末からは収容率 100% での開催へ回復

コロナ対策の基本項目であるマスク着用と歓声頻度、CO2 濃度の調査結果はいずれも感染リスクの抑制を示す結果となった

※ 各種調査結果は国立研究開発法人 産業技術総合研究所による「政府の技術実証による大規模イベントでの感染予防対策の調査（第二報）」（https://www.aist.go.jp/aist_j/new_research/2022/nr20220118/nr20220118.html）より

シーズン	来場者内陽性事象件数	うち複数陽性者発生件数	場内濃厚接触者判断実績
2020-21	8 件	1 件	0 件
2021-22	17 件	4 件	0 件

調査項目	調査結果
マスク着用率	・試合中：平均 96.3 % ・ハーフタイム：平均 92.6 %
歓声頻度	・拍手：平均 39.9 % ・歓声：平均 0.8 %
CO2 濃度	・観客席：623-919 ppm ・コンコース：526-909 ppm

公式試合の安定開催へ焦点

- 効果的な検査手法の確立、ワクチンの追加接種による感染予防効果向上および行動制限の限定化により試合の安定開催へ
- オンコートでの感染リスク検証や効果的な検査手段の確立に向け、各種調査及びリスク検証を実施中

▶ 競技面

課題	TO DO
1. クラスター化を未然に防ぐ	・効果的な検査手段の確立※個別感染の早期スクリーニングよりも、感染拡大予防へ焦点
2. 接触者の感染リスクを見定め、行動制限を限定的に	・実態の感染成立ケースにおけるリスク評価 ・オンコートにおける感染リスクを評価
3. 個々の感染対策を継続	・日常の感染予防対策事項を再整理 ・ワクチンの接種推奨

2021-22

▶ 興行面

With コロナ環境での来場者対応は一定量の成果実績有り。変動しうる国内環境でもこれを維持し、100% 収容率における声出し環境の獲得へ